

クローズアップ・レポート第8回

競馬サークルをとりまく、さまざまな話題を広報委員が訪ねていくコーナーです。
第8回は「栗東トレーニング・センターのニューポリトラック馬場」についてレポートします。

軟らかくクッション性の高い「低反発マット」のような感触

この5月から行われてきた栗東トレーニング・センターの調教コース改修が終了し、新たにニューポリトラックコースが完成しました。

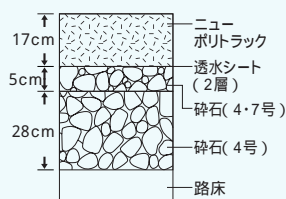
1995年にCコースをダートからウッドチップに変更して以来となる大掛かりな改修で、9月28日には、馬主、調教師、JRA関係者などが集まり、神事と試走会が行われました。西日本馬主協議会副議長でもある八木良司・本会会長(当時)も出席し、コースの安全を祈願しました。

完成したD・Pコースは1周2038m。調教スタンドからは、茶褐色のCWコースに比べてかなり白っぽく映ります。ウッドチップコースだった改修前よりも幅員が4m広い14mになり、2頭までだった併走調教が3頭まで可能となりました。実際にコースを歩いてみると、「低反発マ



手にとると繊維などがよく分かります

ニューポリトラックコース



ット」のような感触で、柔らかくクッション性が高いことがうかがえ、珪砂に電線被覆材やポリエステル繊維、ポリウレタン繊維、ワックスなどを混合しているため、手に取ると油分のベトベトした手触りが残ります。

ニューポリトラックコースは、まず排水性を高めるために底面に単粒砕石を敷き、それらを安定させる混合砕石を敷き詰めます。すでに導入されている美浦トレーニング・センターでは、ニューポリトラックと砕石の間にアスファルトを挟んでいますが、



安全を祈願する関係者



ジョッキーによる試走会

栗東ではコース表面を覆うニューポリトラックと砕石の間に透水性シートを採用し、水はけをより向上させています。

負荷のかからないコースであるため、普段の調教では軽すぎる可能性もあるとか。しかし、疲労を残さない追い切りなどにも適しており、美浦では他の馬場が荒れる時間や特に冬場に利用が増える傾向があるそうです。事実、栗東でも導入間もない11月の調教状況を見てみると、雨により他のコースコンディションが悪化した際に、ニューポリトラックコースでの追い切りが目立っています。美浦同様に天候などに左右されにくい強みはすでに発揮されています。

海外と比較しても誇れるクオリティー

試走会には武豊、福永祐一、佐藤哲三、渡辺薫彦の4騎手が参加し、ハロン15秒程度のペースで1周しました。騎乗する前に自らコースに入って馬場を確認した武騎手は「ポリトラックの特徴であるクッションの良さをすごく感じた。馬も走りやすそうだったし、かなりクオリティーの高い馬場。ポリトラックは海外でも乗ったけれど、それと比較しても誇れますね」とコメント。佐藤騎手は「スピードの操作がしやすく、自分としては大好きな馬場。他の馬の後ろにいたけれど、ポリトラックが飛んできて嫌な思いをすることがなかった。馴致に使うにもいい」と話し、福永騎手は「幅員が広く、蹴り上がりが少

ないので、いろいろなフォーメーションで併せ馬ができる。調教のバリエーションが増やせる」と調教面でさまざまな工夫ができ



ニューポリトラックコースの感触について話す福永騎手と武騎手

るのでとの声があがりました。

調教バリエーションが増えた以外にも、「馬が楽な感じで走れ、上手なフォームで走れるようになる」と厩舎関係者からのコメントも。ニューポリトラック馬場はフォームの固まっていない若駒の調教にも向いていると考えられています。

栗東には強い馬づくりの代名詞ともいえる坂路をはじめ、さまざまな優れた施設が多くありますが、今回のニューポリトラックコースの導入により、さらに充実したトレーニング・センターとなりました。このコースで鍛えられた愛馬が、どのように成長していくのか、今後が楽しみです。